



目標管理してますか？

～ 令和4年度 診療報酬改定を受けて～

湘南泉病院 看護部長 三澤 利重子



目標管理の目指すものは、「組織の目標と個人の目標を結び付け、あるいはやりたいことを一致させて行くこと。病院のハッピーと個人のハッピーを実現するシステムである。いい仕事は、いい仲間づくりから始まる。当看護部は、平成16年より目標管理を実施している。

目標管理は「何のためにやるのか」「目的は何か」を常に念頭に置いて表現することが大切である。職員の自己実現感を支援し、組織の目標を達成するという管理方式である。看護部門における目標管理の導入が看護管理者、看護職員にどのように受け入れられ定着しているのかを明らかにした。受け入れ認識には、肯定的内容と否定的内容にわけられた。看護管理者は、成果として「スタッフの意欲の向上」をあげ、看護職員は、肯定的受け入れ認識で、看護師長、スタッフ共に「目標の意識化」「達成感」をあげていた。「目標の意識化」と「達成感」の間には、看護師長の支援と受ける側のスタッフの良い人間関係があった。また看護師長のスタッフの意識、行動への「承認」が、スタッフの意欲を高め、組織目標にコミットすることがわかった。目標管理を効果的に運用するためにはモチベーションを高めることが必須である。目標設定面接、成果確認中間面接、年度末最終面接の3回の面接を実施し、上記内容の評価を行っている。面接時の心構えとして。

1. 面接の場を和らげる。
2. パートナーとしての立場で、よく聞き、言い争わず、相手に気づくような言い方です。
3. 面接の目標を明確にする。
4. 譲れる点、譲れない点を見定めておく。
5. 思いやりをもってのぞむ。

以上のようなことを考え面接を実施している。

令和4年度は、診療報酬改定がある。下記内容も含め、本部鵬友会の目標を主軸に目標設定の時期となっている。

今回の改定では、新興感染症等への対応や質の高い医療・看護の実現がキーポイントである。その他にも重症度など、医療看護必要度の見直しも実施された。又看護補助者の活用推進。看護補助者との業務分担、協働に関する全ての看護職員を対象とした院内研修の実施や看護補助者への院内研修の実施など、看護補助者の活用に係る十分な体制を整備している場合が評価される。

診療報酬の改定を踏まえ、法人本部の今年度の目標を鑑み、病院目標、看護部目標、個人目標へと絞り込んでいく。下記改定の重点課題を達成し成果を出していくことが求められる。

改定の基本的視点と具体的方向性

1. 新型コロナウイルス感染症等にも対応できる効率的・効果的で質の高い医療提供体制の構築
2. 安心・安全で質の高い医療の実現のために医師等の働き方改革等の推進。
3. 患者、国民にとって身近であって、安心・安全で質の高い医療の実現
4. 効率的・適正化を通じた制度の安全性・持続可能性の実現

改定に当たっての基本認識

1. 新興感染症にも対応できる医療体制の構築など医療を取り巻く課題への対応
2. 健康寿命への延伸、人生100年時代に向けた「全世代型社会保障」の実現
3. 患者、国民に身近であって、安心、安全での質の高い医療の提供
4. 社会保障制度の安定性、持続可能性の確保、経済、財政との調和
5. 社会保障の機能強化と持続可能性の確保を通じて、安心の暮らしを実現し、成長と分配の好循環の創出に貢献するという視点の重要

入院機能に応じた看護職員の配置数を考え、看護の必要量の測定は必要な事項である。

診療報酬の加算は、必要なことを実施しているからつくのであって、加算取得のために実施するものではない。そのようなことを考え、目標を設定し成果を出すべく目標管理を継続している。毎年この時期になると、スタッフからの目標管理シートが届き、私の新年度への意欲向上に繋がっている。自身の励みになり、スタッフのモチベーションの向上が継続されていくように今後も目標管理が持続していけるようにしていきたい。

今年度は、病院機能評価受審など大きな変革の事案がある。2025年、いわゆる25年問題も間近になってきた。変化に強い管理が求められる。ぶれない姿勢で目標値をしっかりとって邁進していきたい。目標管理することは、意義と意味がある。

師長はじめ、多くの方々に支えられ今年度も始まった。

特集 高齢者の脱水予防

「高齢者は脱水状態になりやすい」と言われています。気温の高い夏場はもちろん、年間を通して起こる可能性があります。脱水症の予防とその対策をしっかりとしましょう。

◆なぜ、高齢者は脱水を起こしやすいのか？

加齢と共に様々な身体的機能が低下すると、脱水症状を起こしやすくなります。

脱水症状に至る具体的な要因としては、体内の総水分量の減少が挙げられます。また、腎機能の低下、口渇感の自覚が乏しいなどの感覚機能の低下といった現象も、大きな要因です。

◆次に当てはまる方は注意が必要です

男性よりも女性の方が、脱水を起こしやすいといわれています。

また健康面では、歩行や排泄で介助が必要な方、糖尿病があって常用薬として利尿薬や下剤を使用している方などは、脱水のリスクが高いことが明らかになっています。

◆脱水を防ぐ方法とは

成人の場合、脱水を予防するためには、少なくとも1日に2.5ℓ以上の水分を補給する必要があります。

しかし、飲み物だけで補うのは難しいため、水分量の多い食事を心がけることが大切です。

特に、日頃から水分摂取量が少ない傾向にある方は、夏場の脱水リスクが高くなります。

◆隠れ脱水に注意

「隠れ脱水」とは、体重の1~2%の水分が失われた、脱水症になる手前の状態のことです。のどが渇いたり尿量が減ったりする症状が現れますが、高齢者は「トイレの失敗をしたくない」「トイレに行く回数を減らしたい」「夜間トイレに起きたくない」という思いから、水分を控えがちです。本人が水分不足を自覚していないことも多いため、「隠れ脱水」を起こしやすくなります。



隠れ脱水～脱水症のリスクをチェック!

加齢に伴い自覚されにくくなる水分不足。突然脱水症になるリスクは、誰にでもあります。家族や周りの方も、一緒にチェックしてみましょう。

チェック 1

隠れ脱水につながる生活背景

- ここ1年の間に脱水症・熱中症と診断されたことがある
- 利尿剤を服用している
- 検査でアルブミン値が低い(3.5g/dl以下)と診断されている
- 一人暮らしをしている
- マンションのような気密性の高い家に住んでいる(日中の熱がこもりやすい)
- 暑くても、節電のためエアコンの使用を控えている

1つでも該当したらチェック2へ

チェック 2

脱水症につながるやすい出来事

- 暑い日が続いている(真夏日、熱帯夜など)
- 下痢や嘔吐、大量の汗をかくなどを繰り返している
- 最近、風邪をひいた
- 最近、大きなケガや手術をした
- 生活環境が変わった(引っ越し、家族との別れなど)

1つでも該当したらチェック3へ

チェック 3

脱水症が疑われる身体状況

- 食欲が減ってきた
- 尿の回数や量が減ってきた
- 尿の色が濃くなった
- 便秘が続いている
- 微熱が続いている
- 元気がなく居眠りをしていることが多くなった
- 口の中や唇が渇いている
- 汗をかくことが少なく、皮膚やわきの下が乾燥している
- 指の先が青白く、冷たい
- 頭痛や筋肉痛を訴えている



1つでも該当したら… **脱水症が疑われます。**

